

「新庁舎建設基本設計（素案）に関する地区別説明会」質問・意見等の記録

【会場：幕別町民会館】

1	日 時	平成 25 年 5 月 28 日(火) 19:00~19:58
2	会 場	幕別町民会館 2階講堂
3	参加者	8人(ほか報道関係1人)
4	町出席者	総務部長、企画室長、建設部長、総務課長、企画室参事、都市施設課長、 企画室副主幹、建築係長、都市整備係長

住民

免震構造にしたときのコストアップは一割程度、金額にすると1億6千万円と聞いたが、間違いな
いか。免震装置を設ければ、柱や梁を細くすることが当然検討されているだろう。免震装置を付けて
建物が耐震構造よりも若干安価になり、差し引いた金額が1億6千万円になるものと思うが、今回の
建物の中の免震装置自体の工事費は幾らになるのか。当然1億6千万円より多いと思うが、教えて頂
きたい。

町

免震構造によるコストアップの1億6千万円については、他の類似施設の資料やこれまでの事例に
などにより算定したもの。

免震装置については、かなり概算にはなるが約8千万円位は掛かるのではないかと考えている。

また、免震構造にすると柱・梁を細くすることが可能となるが、構造計算が必要となり現時点では
正確に把握できないことから、その分は見込んでいない。

住民

今回の建物について耐用年数はどの位と考えているのか。併せて、免震装置自体の耐用年数はどの
位か。自分なりに調べてみたが、メーカーの資料には、免震装置、特にゴムの劣化を考えた時に、65
年とかそれ以上という資料は見たが、物によっては20年30年といった資料もあった。どちらがいい
のか、実際には60年、70年と経過した建物自体がないので想像の域を出ないが、仮に30年で免震装
置自体の能力が無くなった時に、途中で免震装置の取り換えが必要となり当然ジャッキアップしなく
てはならない。多分、当初の施工よりも多くの工事費が掛かると思うがその辺はどう考えているのか。

町

免震装置自体の選定や具体的な検討は、まだまだこれからの段階になる。建物自体は、通常の鉄筋
コンクリート造りであるから50年、60年という耐用年数となる。まずは耐用年数期間中に同じ様な
期間を耐えるような物を、また、逆に20年なりものを使って取り替えの費用までを考え、経済比
較での選定も考えられる。しかしながら、今後においては公共施設の長寿命化を図ることが求められ
ており、今回の新庁舎においてもそうしたことを含めた全体で判断することになる。

住民

2年前の東北の震災から、災害によって設計基準を超える災害がいつ起きるか分からない。例えば、
想定以上の災害が起きた時に想定外でしたという言葉は行政としては絶対に許されない。だから想定
以上の地震が起これ、その時に機能停止しましたということでは、多分もう説明が出来なくなってく
るだろう。

基準上では確かに設計上の値として盛り込むことは出来ないかもしれないが、想定外の地震が起き
た時に建物自体が倒壊だとか完全に潰れてしまう、そういうことも想定出来なくはない。

札内でも話が出ると思うが、「費用を最小限に下さい」、「免震装置は高価すぎる」、「税金を無駄
遣いするな」といった話がこれから三日間の説明会の中で必ず出ることだとは思いますが、想定外のこ
と

が起きても、例えば行政機能がきちんと働くとかそういう意味では免震装置というのは必ずしも反対ではない。どちらかといえば賛成だ。

しかし、想定を超えた場合に免震装置がどう作動するのか、その辺もリスクとして行政として考えていく必要があるのではないか。

その辺も含めて、想定外が起きた時にどうなるかを頭に入れて設計して欲しい。

町

想定外を想定外と言えないというのは確かにその通りである。しかし、建物の構造設計については、耐震、免震のそれぞれが一定程度の構造基準を国で定め、その考え方に従って設計をするもの。

地震については、現在考える地震を基に設計をすることになるものではないが、建物に対して重要なケース、使用目的に応じて求める強度を引き上げることによって、同じような地震であってもそれ以上に耐えうるように作るということは可能である。そうした考え方に基づいた配慮をしていきたいと考えている。